

**2020年度 日本文化人類学会  
第4回理事会 議事録**

日時：2020年12月13日（日）14：00～18：00

会場：Zoomを使用したオンライン会議

<出席者>窪田幸子、東賢太朗、飯嶋秀治、飯田卓、石井美保、岡田浩樹、小川さやか、  
亀井伸孝、川口幸大、木村周平、湖中真哉、里見龍樹、椎野若菜、曾我亨、田辺明生、  
中川理、名和克郎、真島一郎、丸山淳子、箕曲在弘（以上、理事）、三尾裕子（以上、監事）  
<委任状提出者>松村圭一郎、森田敦郎（以上、理事）、岸上伸啓（以上、監事）

**[承認事項]**

1. 第3回理事会議事録について文言調整の上承認。
2. 新入会員の承認
  - ・15名の新入会員につき業務執行理事の間で入会を承認したことを報告し、事後承認。

**[報告事項]**

1. 代表理事報告
  - ・日本学術会議会員任命拒否問題への対応について、人文社会系学協会連合連絡会の各学会と共同声明を出したこと、同連絡会が日本記者クラブで共同記者会見を行ったことを報告。その後、海外に向けて声明の英語訳の公開、同連絡会が海外記者への会見も行ったこと、また今回の問題について書籍出版の計画があることを報告。
  - ・第47回澁澤賞の授賞式に会長が出席し祝辞を述べたことを報告。受賞者は中空萌会員。
2. 業務執行理事（庶務担当）報告
  - ・役員の変更登記書類の進捗状況について、現在、署名用の印刷物を用意しており近日中に各理事、監事へ発送、約一ヶ月後に回収予定であることを報告。
  - ・前回理事会以降の理事会メール審議4件について下記の通り報告の上、事後承認。
    - 1) 第25期日本学術会議新規会員任命拒否に対する緊急声明（案）の発出を承認（10月6日配信、10月7日承認）
    - 2) 緊急声明発出後の取り組みについて以下のことを承認。（10月9日配信、10月13日承認）
      - ①日本学術会議会員任命拒否問題に関し、日本教育学会からいくつかの分野がそろって共同記者会見を開催し、声明文と要望書を官邸に提出するという提案が日本文化人類学会に届いていることについて、基本的な方向性を承認、具体的な対応を総務会に一任することを承認。
      - ②学会HPに掲載した緊急声明文を内閣総理大臣に郵送することを承認。
      - ③学会HPに掲載した緊急声明文に関し、その発出の経緯及び日本文化人類学会と日本学術会議の関係を説明した文章を窪田会長名でJASCA-INFOにて配信することについて承認。
      - ④『文化人類学』85巻3号郵送時の緊急声明文および説明文書（前半部分のみ）を同封あるいは掲載することを承認。
    - 3) J ミルクからのシンポジウム後援依頼について、慎重な意見交換の結果、学会

後援を行わないこととした。今後の理事会において共催・後援の基準および手続きについて審議を行うこととした。(10/22 配信、10月29日承認)

4) 学術会議の会員任命拒否問題に関する他学会との共同声明について、①共同声明への学会名の記載、②「共同声明」への参加、③理事会名義での参加の3点を承認。(10月29日配信、11月3日承認)

- ・WCAAのウェブジャーナル“*Déjà Lu*”へ、学会奨励賞受賞論文を送付したことを報告。
  - ・会費未納4年目会員への対応について、会費納入ないし正式な退会手続きのいずれかの手続きをとらない場合には退会処理を行うことを報告。これに向けて、12月中に会長名のメールで会費納入依頼及び退会意思の確認をすることとした。その際、会費特例措置の案内の一文を入れることとした。また、定年を迎えた会員への対応として前期理事会で検討された alumni 会員について、今期も会計理事を中心に継続的に議論した方が良いとの意見が出された。
3. 業務執行理事(会計担当)報告
- ・GEAHSSより2020年度分担金1万円の請求があり、前期理事会で承認済みであることから、予算の「諸雑費」費目より1万円を支出したことを報告。
4. 業務執行理事(総務担当)報告
- ・来年度の学会主催公開シンポジウムについて、澁澤民族学振興基金「民族学振興プロジェクト助成」、科研費「研究成果公開促進費(成果公开发表B)」の申請を完了したことを報告。シンポジウム担当は佐久間寛会員。その後、澁澤民族学振興基金から採択内定通知があったことを報告。
  - ・人類学関連学会協議会(CARA)合同シンポジウムについて、2020年度当番学会の日本民俗学会により本日開催され、本学会からは新ヶ江章友会員が登壇することを報告。開催経緯として、COVID-19の影響で当番学会の研究大会中の開催ではなく12月13日オンライン開催への変更連絡があり、本学会員へ向けて11月中旬にJASCA-INFO、学会HPを通じて専用フォームへの申込をアナウンスし、78名の会員から申し込みがあったことを報告。
5. 業務執行理事(広報担当)報告
- ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき計9件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。
  - ・オープンアクセスリポジトリ推進協会から本学会許諾基準提供依頼があり、総務会で検討の上、提供を承認したことを報告。
6. 各種委員会報告
- ・『文化人類学』編集委員会：石井理事より、85巻3号、それ以降の進捗状況を報告。
  - ・JRCA編集委員会：東理事より、Vol.21-1、2の進捗について報告。
  - ・「国際情報発信強化」特別委員会：欠席の森田理事に代わり箕曲理事より、国際研究集会発表助成で採択された2件の執行状況を報告。
  - ・研究大会実施委員会：中川理事より、恒久的に使用できるよう研究大会実施委員会口座を開設することにしたことと、現在口座開設申請中であることを報告。預け金の支給と次年度の返金、余剰金が収益ではなく会員への福利として学会会計へ戻されることについて、法人会計として問題がないかどうか、基金化によって対応すべきかどうかなど、会計理事を中心に検討することとした。第55回大会第2回サーキュラーの公開を報告。

- ・研究育成委員会：椎野理事より、11月14日にオンラインで開催した次世代育成セミナーについて、コメンテーターの決定が困難であったこと、そのような中で充実したセミナーとなったことを報告。次年度以降、多言語への対応や、ハイブリッド型での実施とするかどうかなど検討を続けていくことを報告。
- ・男女共同参画・ダイバーシティ委員会：椎野理事より、各学協会の取り組みについて GEAHSS からのアンケートに回答したことを報告。この機会に委員会では本学会の現況について確認、問い直すきっかけとなったことを報告。
- ・倫理委員会：亀井理事より、木村プロジェクトから学会宛に届いた書簡「アイヌ遺骨等を用いた DNA 研究等を進めるにあたっての遵守 3 項目について (通知)」について、木村プロジェクト代表者へ返信を行ったこと、今後も同様のことがあればその都度検討の上、対応することを報告。

### 〔審議事項〕

1. メール審議のルールについて
  - ・業務執行理事（庶務担当）の箕曲理事より、現状、理事会メール審議のルールが明確ではないことが説明され、メール審議のあり方について意見交換が行われた。
  - ・定款の変更を伴うルール化ではなく、定款の範囲内で可能な運用方法を検討してはどうか、との意見が出された。また、理事会メール審議後は、直近の実際の理事会で審議事項に入れて事後承認するという提案や、回答フォームを用いての回答などの提案が出された。まずは、次回メール稟議を行う際に回答フォームでの回答方法について試み、有効であれば内規化することも含め、引き続き検討を行うこととした。
2. 学会共催および後援イベントの承認ガイドライン（案）について
  - ・業務執行理事（庶務担当）の箕曲理事より、総務会で検討したガイドライン原案が提示され、承認された。ガイドラインには、主催者、内容、費用負担に関する条件を満たすイベントと、その他理事会が特に認めたイベントについて学会の共催・後援が可能となることが明記された。なお、その他理事会が認めたイベントの事例として社会貢献についても対象として考慮することを確認した。
  - ・各地区研究懇談会との共催、後援について、各地区研究懇談会に打診があった場合は各地区に判断を任せ、学会へ直接打診があった場合には各地区へつなぐ手順を確認した。なお、各地区研究懇談会で判断に迷うものは必要に応じて総務会、理事会で検討することを確認した。
  - ・業務執行理事（広報担当）の名和理事より、学会ウェブサイトにて共催・後援したイベントのアーカイブを残してはどうかとの提案があり、承認された。
3. 日本学術会議問題への対応について
  - ・業務執行理事（庶務担当）の箕曲理事から下記の説明と提案がなされた。
    - 1) 学会員から学会へ寄せられた意見への対応について、個別に回答を行うことと、返信文の原案が提案され、承認された。
    - 2) 共同声明英語版の添え文と外国人賛同者募集文案が提示され、人文社会系学協会連合連絡会からこの文案を任意で、知人などに配信することについて依頼があったことが説明された。また、人文社会系学協会連合連絡会事務局より送られてきた「共同声明の英語版」を、総務会で検討の上、12月2日(水)に学

会 HP に掲載したことが報告された。これに関連し下記の審議を行った。

① 同事務局から依頼のあった別紙の文章（英語共同声明の掲載時に添える説明文ひな型）の学会 HP への掲載について、審議の結果、承認された。

② 国外からの反対声明への賛同を募るためのメールを各方面に送付することについて学会としてサポートするかどうかは判断を保留し、連絡会と更に確認を行うこととした。

3) 人文社会系学協会連合連絡会事務局より、論創社より刊行予定の『私たちは学術会議の任命拒否問題に抗議する（仮）』に、本学会の声明文を掲載したいと依頼があったことが報告され、この依頼を受けるかどうかについて、審議の結果、承認された。

#### 4. 学会年間事業計画の変更について

・業務執行理事（庶務担当）の箕曲理事より、2020 年度の学会主催国際シンポジウムを COVID-19 の流行等による事情により開催中止とすることが承認された。

#### 5. 澁澤民族学振興基金選考委員会推薦について

・業務執行理事（庶務担当）の箕曲理事より、次期選考委員の総務会原案が提示され、承認された。本人の内諾を得られた後、基金側へ推薦書を提出することとした。

#### 6. 名誉会員の推戴について

・業務執行理事（庶務担当）の箕曲理事より、2021 年度に日本文化人類学会名誉会員内規第二章第二条の条件を満たす会員 1 名を社員総会に推薦することが提案され、審議の結果、承認された。

#### 7. 寄附金の申込について

・業務執行理事（会計担当）の里見理事より、前期会長の清水展先生から寄附金の申込があったことが報告された。寄附金取り扱い規定第 3 条に抵触しないことを会計理事が確認したことを説明、審議の上、寄付を受け取ることと、規定に則り手続きを進めることが承認された。

#### 8. 次年度以降の JRCA 刊行の方針について

・業務執行理事（会計担当）の里見理事より、国際情報発信強化科研事業として 2 号刊行している JRCA について、来年度から科研費補助金が無くなり学会会計上の負担が大きくなることと、現状の経費について説明があり、経済的に危機的な状況であることを情報共有の上、今後どのように刊行していくか検討する必要があることが説明された。科研事業として目標達成のために投稿増、英文率増を目指した経緯を確認し、科研費補助金からの助成がなくなった後の刊行体制や方針について早急に会計担当理事と編集委員会を中心に検討を進めることとした。

#### 9. ML サーバー更新について

・業務執行理事（広報担当）の名和理事より、今後に向けたセキュリティ対応の強化と、JASCA-INFO、NET のメーリングリスト管理の簡素化を兼ねて、学会サーバーの OS の入れ替えを行うことが提案された。この方向で対応を進めることについて、審議の結果、承認された。

・JASCA-INFO の停止期間があるのであれば繁忙期を避けるなどの配慮が必要であることを確認した。

#### 10. 学会誌表紙デザイン料について

・飯田理事より、現在、工藤強勝氏のデザイン実験室に委託している『文化人類学』の

表紙デザイン料について、現在の1号あたり27,500円(税別)から30,000円(税別)への値上げが提案され、審議の結果、承認された。

11. 第54回研究大会の決算について

- ・木村理事より、第54回研究大会の収支決算報告が提示され、説明がなされた。
- ・また、余剰金について会計理事より、「収益事業による収益ではなく、定款に定められた本学会の目的に即した会員の公益のための活動であり、ここでの収入も今後の学会の活動に使用する」ことが説明された。審議の結果、決算報告及び余剰金の扱いについて承認された。

12. 第55回研究大会の開催形式の決定について

- ・研究大会実施委員長の中川理事より、現時点まで発表形式未決定のままで第55回研究大会の発表者募集を行っていたが、そろそろ開催形式の検討を委員会で行う必要があることが報告された。審議の結果、COVID-19流行をめぐる状況や実施委員会の負担等を鑑み、オンライン開催を含め、開催形式の決定は実施委員会に一任することが承認された。

13. 「日本文化人類学会弔意規程」改正案について

- ・業務執行理事(庶務担当)の箕曲理事より、変更部分の説明がなされ、審議の結果、改正案が承認された。

14. 「日本文化人類学会旅費規程」改正案について

- ・業務執行理事(庶務担当)の箕曲理事より、変更部分の説明がなされ、審議の結果、改正案が承認された。

15. 「日本文化人類学会地区研究懇談会規程」改正案について

- ・業務執行理事(庶務担当)の箕曲理事より、変更部分の説明がなされ、審議の結果、改正案が承認された。

16. 「日本文化人類学会名誉会員に関する内規」改正案について

- ・業務執行理事(庶務担当)の箕曲理事より、変更部分の説明がなされ、審議の結果、改正案が承認された。次年度の社員総会へ諮ることを確認した。

17. 「日本文化人類学会倫理綱領」改正案について

- ・倫理委員会委員長の亀井理事より、変更部分の説明がなされ、審議の結果、タイトルに「一般社団法人」を追加の上、改正案が承認された。次年度の社員総会へ諮ることを確認した。

18. 「日本文化人類学会学会賞選考規則」改正案について

- ・学会賞選考委員会委員長の曾我理事より、変更部分の説明がなされ、審議の結果、文言調整の上、改正案が承認された。施行日は次年度社員総会の日付とすることを確認。

19. ジェンダーバランスに関する申し合わせについて

- ・男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会委員長の椎野理事より、今後の選挙や委員会構成についての申し合わせが提案された。過去20年間の学会の会員、役員等のジェンダーバランスを確認し、委員会で今後に向けて今後の選挙や委員会構成についての申し合わせを作成したことが説明され、審議の結果、申し合わせが承認された。
- ・今後、代議員選挙案内へジェンダーバランスへの配慮を求める会長名でのメッセージを記載すること、各種委員を決める際にバランスに配慮することが承認された。

20. 課題研究懇談会の今後について

- ・研究推進委員会委員長の丸山理事より、資料に基づき、課題研究懇談会の制度改定に

関する委員会での検討結果について報告がなされた。これまでの検討経緯を委員会で把握、整理した上で、経費の措置を必要とするシードマネー方式ではなく、ヨーロッパ社会人類学協会（EASA）ネットワークの方式で、「課題研究ネットワーク」試案が提示された。会員同士の研究交流を深めるための開かれたネットワーク形成を主とし、予算措置は行わないことなど、制度の構想について詳細な説明があり、意見交換の結果、課題研究懇談会の募集が停止されている現状を確認の上、より良い制度設計に向け、委員会で検討を続けることとした。

- ・ 第5回理事会日程案 2020年2月28日（日）14：00～ オンラインを予定。

以上